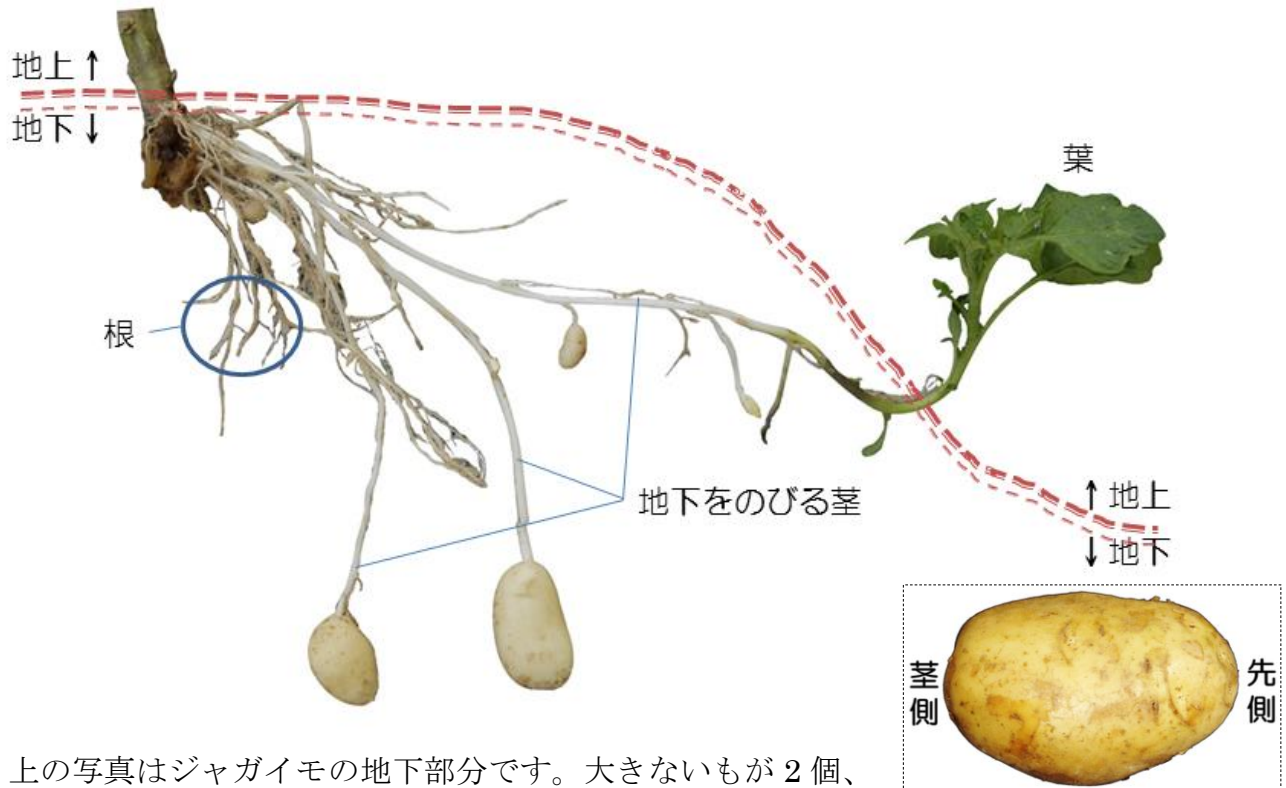


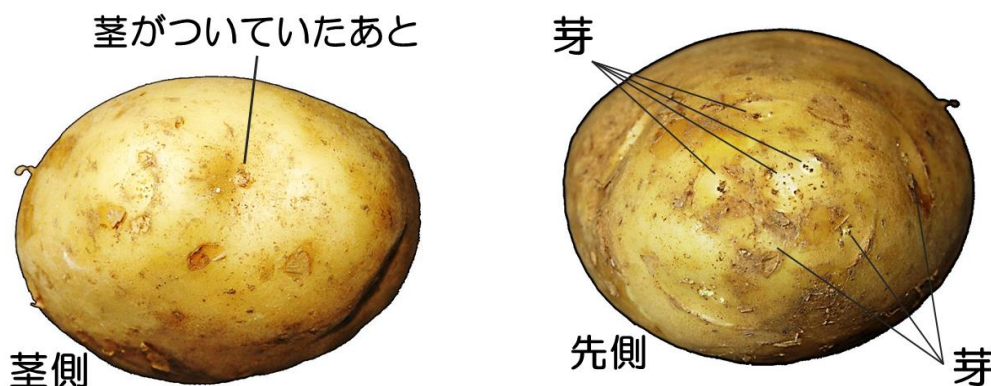
No.411

ジャガイモは地下の^{くき}茎である



上の写真はジャガイモの地下部分です。大きないもが2個、それぞれ地下をのびる^{くき}茎の先についています。さらに、右へ伸びて葉っぱをつけている茎の途中からも^{こえだ}小枝が出て、2個の小さいいもがふくらみはじめています。これを見るとジャガイモのいもは地下の茎についていることが分かります。植物のジャガイモにとって地下のいもは^{えいようぶん}栄養分（でんぷん）の^{ちよぞうこ}貯蔵庫です。

私たちがスーパーなどでよく目にするいもは、茎についていた側^{がわ}がどちらだったか分からなくなっていますが、イボの数を数えればこれを見分けることができます。茎側にはへそのようなイボが真ん中に1個だけ、これに対して先側には浅いくぼみを伴った小さな点のようなイボが5-6個まばらについています。茎側のイボは茎がついていたあと、先側のイボはやがてのび出す芽です。つまりジャガイモのいもは、地下の茎の先端が太ったものであるといえます。（太田道人）



茎についていた側にはへそのようなイボが一つ。茎が伸びていく先側には、小さなイボがまばらに5-6個ついていきます。